ＩＴＥＲ閣僚級会合プレスリリース（仮訳）
ブリュッセル　２００６年５月２４日

ＩＴＥＲ参加極が世界最大の国際科学協力について合意に至る

ＩＴＥＲ計画は、エネルギー源としての核融合の可能性を実証するための計画であるが、世界人口の半分以上を代表する国々が参加する、世界最大の科学協力である。同計画に参加する７つの国と地域が２００６年５月２４日にブリュッセルに集まり、南フランスのカダラッシュをＩＴＥＲの建設・運転サイトに決定して以来行われてきた政府間協議の合意を確認した。ＩＴＥＲ計画は空前の規模の国際協力による研究計画であり、太陽や星で起こっている物理反応－核融合－を再現しようというものである。７つの国と地域とは、中華人民共和国、欧州連合、インド、日本、大韓民国、ロシア連邦、アメリカ合衆国である。核融合は大規模なエネルギー源として、いくつかの魅力を持っている。それらは、基本燃料が豊富でいたる所に存在すること、温暖化ガスの放出が無いこと、「炉心溶融」や「暴走反応」の可能性が無いこと、将来の世代に引き継がなければならない長寿命の放射性廃棄物が無いこと、である。

昨年の６月にサイトをカダラッシュに決定して以来、７つの国と地域は相互の信頼と協力の精神のもとで共に取り組み、世界が必要とするエネルギーを供給するための魅力的かつ長期の選択肢として核融合を開発する道筋の次のステップとして、ＩＴＥＲを実現するという共通の目的に向かって大きく前進した。

協定案の仮署名は、長きにわたった複雑な交渉プロセスの終了をもたらすものである。今後、各参加国はそれぞれの国内法と慣例に従って、協定案を採択するだろう。

全ての参加国は、２００６年末までに協定案の採択を完了することが望まれている。これは、サイトにおける全ての必要な建設許可を得るというプロセスの完了を踏まえて、実際の建設が２００７年中にも開始され得るということを意味する。